

大同特殊鋼株式会社（証券コード **5471** [鉄鋼]）



半導体、CASE、クリーンエネルギー、航空・宇宙、先進医療
素材の技術革新がイノベーションを誘発する



大同特殊鋼の今、2025年

“100年企業”、創業者 福沢桃介が掲げた「互戒十則」を実践し、
お客様とともに成長してきた109年の歴史が形作った企業の姿

＜互戒十則 1916年＞

- 一、我々の亨（う）くる幸福は、十万**需要家**の賜（たまもの）なり
- 二、我々は寸時（すんじ）も、**需要家**の恩恵を忘却すべからず
- 三、**需要家**の主張は常に正当なり。懇ろ（ねんごろ）に応接すべし
- 四、故障を絶対に予防し、**需要家**に満足を与うべし
- 五、時間と労力は貴重なり。最も有効に使用すべし
- 六、其日（そのひ）になすべき仕事は、明日に延ばすべからず
- 七、細事も忽せ（ゆるがせ）にするなかれ。一物も損なふなかれ
- 八、議論と形式は末なり。実益を挙ぐるを本とせよ
- 九、不平と怠慢は健康を害す。職務を愉快に勉めよ
- 十、会社の盛衰は吾々の双肩にあり。協力奮闘せよ



売上収益	5,749億円
営業利益	394億円
純利益	283億円
営業利益率	6.85%
従業員数	12,054名

2025年3月期 決算短信（連結）

資本合計	4,691億円	発行済株式数（普通株式）	217,243,845株
NET有利子負債	1,156億円	1株当たり親会社所有者帰属持分	2,085.61円
設備投資	469億円	1株当たり当期利益	134.57円
研究開発費	66億円	1株当たり配当（年間ベース）	47円
ROE	6.7%	株価（2025年9月8日終値）	1,345円

事業セグメント 売上高および製品用途例

売上高 **5,749億円** (2024年度)

2,101

(37%)

特殊鋼鋼材

自動車・産業機械向け特殊鋼鋼材
工具鋼



特殊鋼鋼材・ステンレス鋼材（形状）

棒鋼



線材



工具鋼（金型）



機能材料・磁性材料

ステンレス鋼材

電気・電子部品用製品（帯鋼製品）

粉末製品、チタン製品、
重希土フリー磁石



帯鋼製品



粉末製品

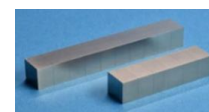


チタン製品



熱間加工磁石

Nd-Fe-B
(重希土類Dy, Tbフリー)



駆動モータ用
ロータ

2,009

(35%)

自動車部品・産業機械部品

自由鍛造品、型鍛造製品、鋳鋼品



自由鍛造品

航空機部品、重電（ガスタービン）部品

船舶用バルブ、掘削（Oil & Gas）

半導体関連、プラント向け他



241 (4%)

268 (5%)

エンジニアリング

電気炉、熱処理炉、環境設備

流通・サービス



電気炉



真空気焼鈍炉



下水汚泥炭化炉

特殊鋼の生産拠点 国内生産拠点:13拠点・国内グループ会社:34社

高合金溶解のマザー工場である渋川工場、高生産を追求した量産工場の知多工場において
構造用鋼から高合金などの幅広い素材を提供

渋川工場

(26年2月2日株式取得予定)
日本高周波鋼業
富山製造所



知多工場

渋川工場 ■
自由鍛造品工場



溶解設備

- 真空誘導炉VIM 3基
- 真空再溶解炉VAR 11基

知多工場 ■ ■
特殊鋼一貫製造工場



溶解設備

- 電気炉 4基

(26年2月2日株式取得予定)
日本高周波鋼業
工具鋼、軸受鋼、ステンレス鋼
製造工場



(小ロット) 溶解設備

- 電気炉 2基(40t、10t)
- 真空誘導炉 (3t)
- 真空再溶解炉VAR (7t)

知多第2工場 ■ ■

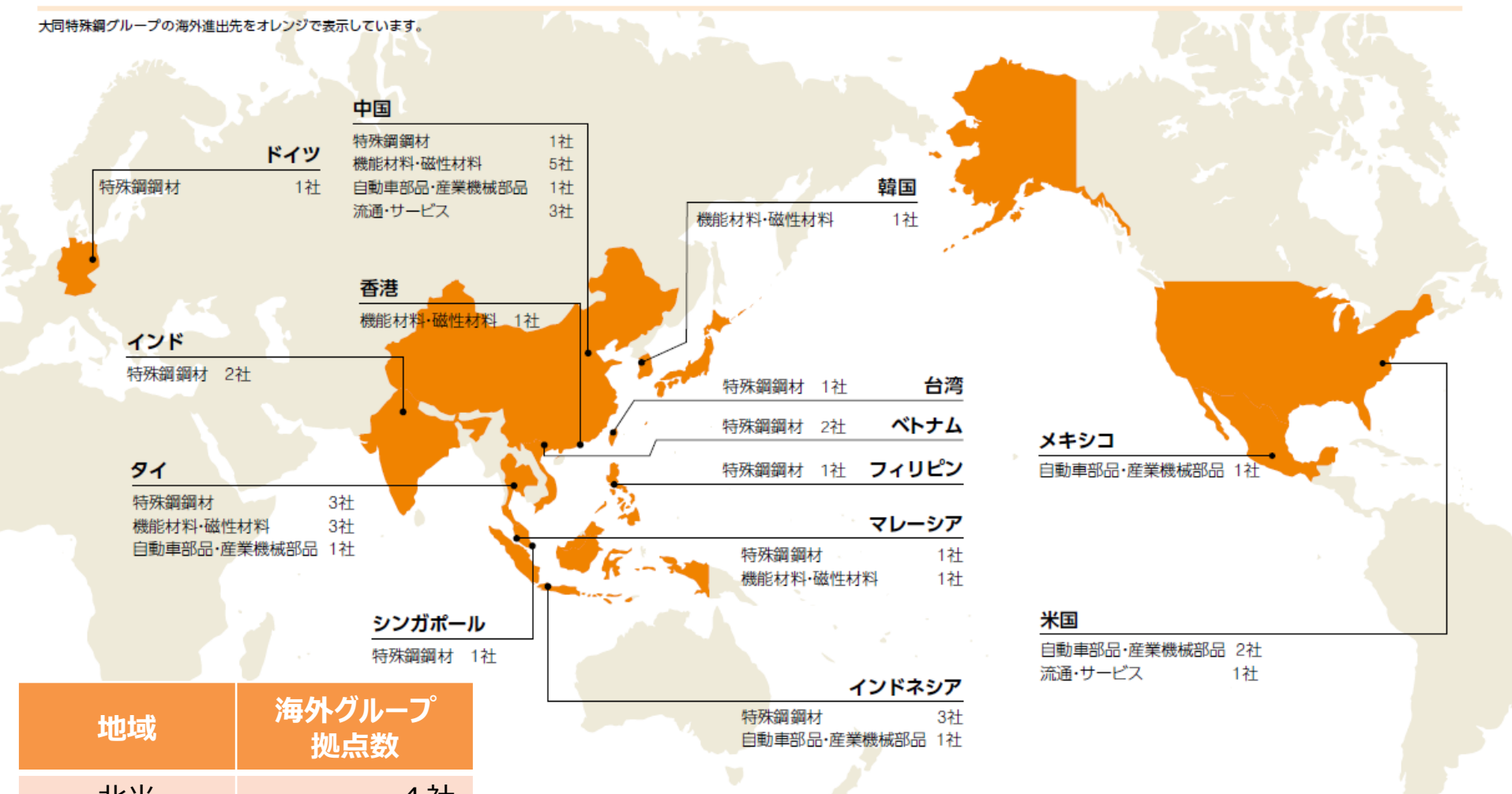
知多工場に隣接した知多第2工場
VAR2基導入(2025年2月)



海外事業展開

大同特殊鋼グループの概要

大同特殊鋼グループの海外進出先をオレンジで表示しています。



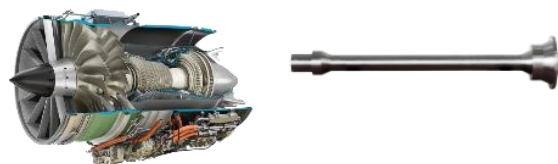
地域	海外グループ 拠点数
北米	4社
アジア	3 2社
欧州	1社
合計	3 7社

産業発展の基盤となっている大同特殊鋼の製品例

自動車



航空機



船舶



エネルギー



産業発展の基盤となっている大同特殊鋼の製品例

自動車

半導体製造装置

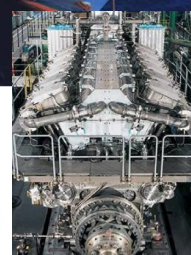
先進医療機器



航空機

船舶

エネルギー



大同特殊鋼のコアコンピタンス 『特殊を超える価値』を創造する



共創力

自動車、重電、航空等産業のお客様と、サステナブル社会の実現に向けた新しい素材を**共創**

- ・プロセスよりも顧客との対話
- ・顧客のベネフィットを創造する開発
- ・計画に従うことよりも変化への対応を重視



開発力

鉄（Fe）の可能性を追求し、高機能で安定した品質の特殊鋼鋼材をはじめ、合金、金属間化合物など金属系素材の価値を極める研究開発を推進



現場力／製造技術

多種多様な機能性材料を**独自技術・設備**を駆使して造り込む－製造技術は『大同モノづくり改革活動』によって自律的に進化し続ける

お客様との共同開発
(2024年3月末時点)

163件

外部機関との共同研究
(2024年3月末時点)

46件

研究開発人材
(2025年3月末時点)

約**300名**

研究開発費
(2024年度)

66億円

取り扱い製品種類 **約4,000種類**
(材質×形状の種類、2023年度)

自主管理活動改善件数
(改善提案件数、2024年度)

年間**13,100件**

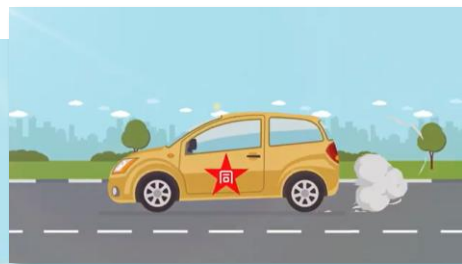


大同特殊鋼の事業について

『**素材の可能性**を追求し、人と社会の未来を支え続けます』を企業理念とし、
“**高機能素材**”の価値を極め、顧客ベネフィットを創造し、サステナブルな社会の
実現に貢献することをめざした企業活動をおこなっています

- 1] **鉄鋼**や化学などの素材産業は国際競争力を有し、その製品は日常生活から自動車、エレクトロニクス、航空・宇宙、エネルギー、医療など、多岐にわたる分野で使用され、日本の社会と産業の発展を支えてきた
- 2] **鉄鋼産業**は、消費者向けの最終製品よりも主に**中間財**を製造しており、産業内の取引の割合が大きい産業の高度化にとまない、『強く、硬く、しなやかに』以上の様々な“機能”を有する幅広い“特殊鋼”製品を生み出し、産業界全体に新しい可能性をもたらしている
- 3] **鉄鋼産業**は、その製品の製造過程で多くのエネルギーを消費する環境対策（カーボンニュートラルの実現）や資源の有効活用（サーキュラーエコノミー実現への貢献）など企業の社会的責任（CSR）に目を向けるとともに、多くの社会課題を解決することで新たな事業機会を生み出す活動（CSV）も強く意識する

すべての産業の発展を支えてきた素材産業



鉄鋼業をはじめとする**素材産業**は、すべての産業の基盤となる業界です。わたしたちの生活を取り巻く工業製品のすべてが、**鉄**、銅、アルミニウムなどの**金属素材**や合成樹脂、合成繊維、ゴムなどの化学素材、セメントや紙などの**素材**からできています



参考：鉄鋼製品があらゆる産業で利用される理由



地球上に（宇宙空間にも） 資源が豊富

＜まとめ知識＞

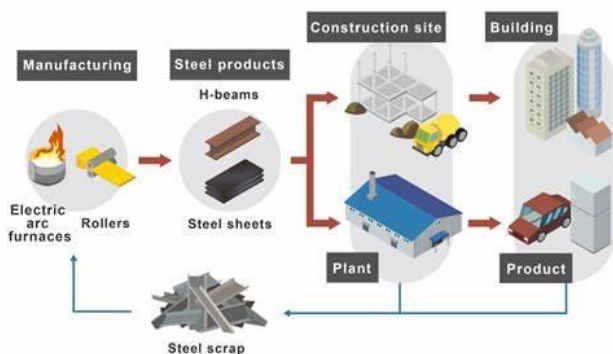
天然の鉄Feの約92%は安定同位体 $[^{56}\text{Fe}]$ （中性子数30）である。 $[^{56}\text{Fe}]$ は原子核の結合エネルギーが最大（※）で質量欠損が多いため、巨大恒星内部での**核融合過程の元素合成による最終元素**となる。

※実際には、核子当たりの結合エネルギーが最大となるのは $[^{62}\text{Ni}]$ と $[^{58}\text{Fe}]$ の2核種であるが、

※実際には、核子当たりの結合エネルギーが最大となるのは $[^{62}\text{Ni}]$ と $[^{58}\text{Fe}]$ の2核種であるが、この2核種は軽い核種の核融合反応が $[^{56}\text{Fe}]$ に比べて起こりにくい。

日本における粗鋼生産量

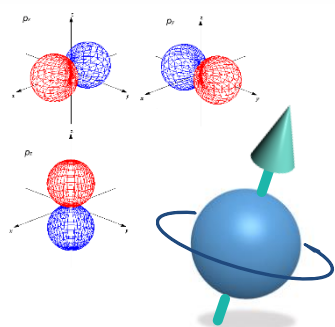
8,401万トン／年！



製造・加工が容易で、リサイクルもし易い

リサイクルされる鉄スクラップの量

約2,500万トン／年！



強さ、硬さ、しなやかさ以外の
様々な“機能”を付与できる

＜まとめ知識＞

鉄Feに炭素Cを0.8%添加するだけで、鉄鋼材料の**引張強さ**は4.5倍以上、**900MPa以上**になる！
鉄Feは遷移金属の中でも電子スピンの偏りが著しく、電子スピンによる磁気モーメントの総量も大きくなり**強磁性**という特性を示す。 ※常温で強磁性を示す金属は、鉄、コバルト、ニッケル、ガドリニウムの4種類しか存在しない！！

日本における特殊鋼の生産量

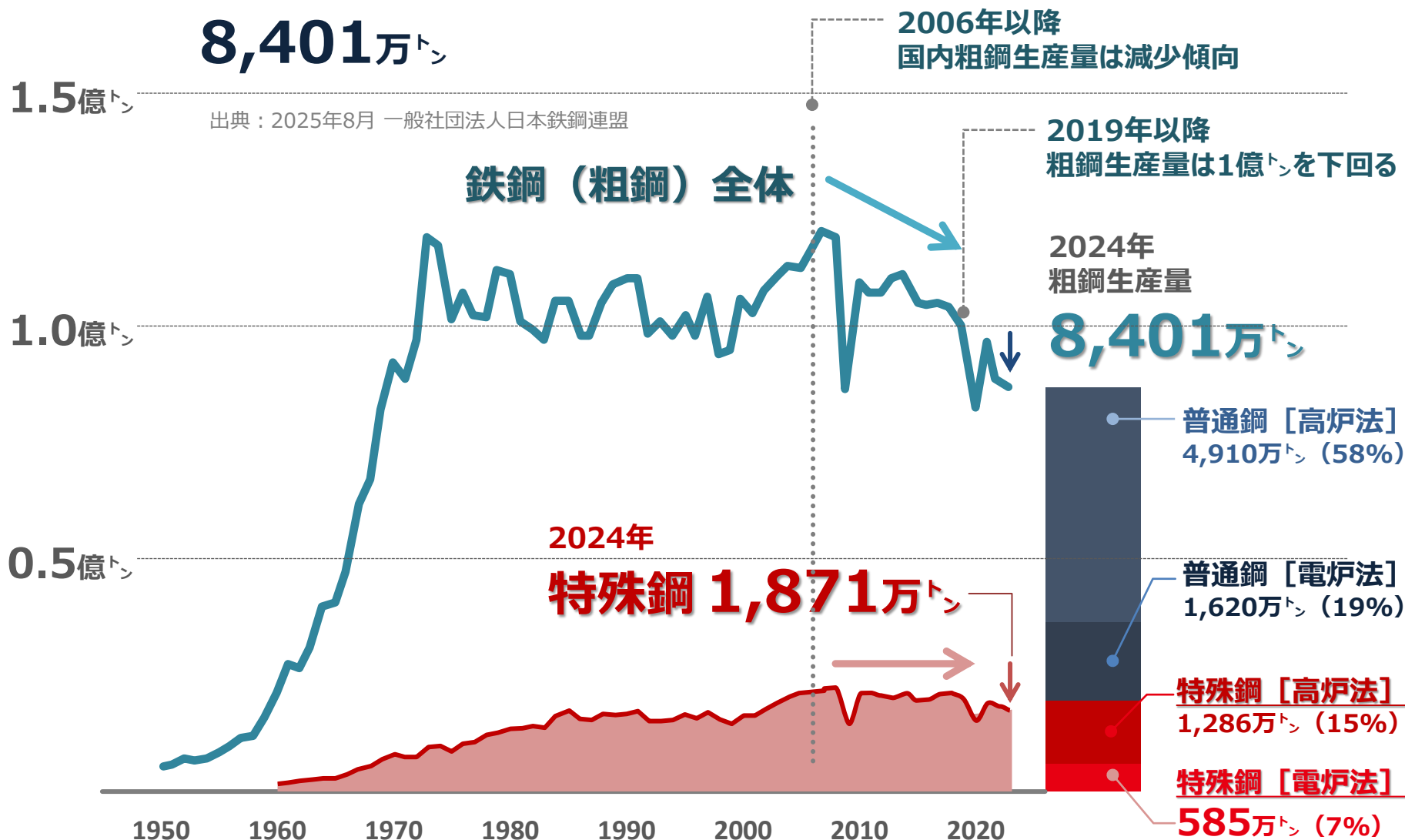
1,871万トン／年！

日本の鉄鋼（粗鋼）生産量の推移

2024年日本の粗鋼生産量

8,401万トン

出典：2025年8月 一般社団法人日本鉄鋼連盟



参考：特殊鋼について

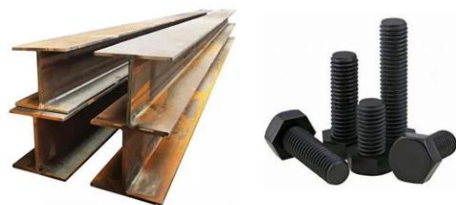
- ✓ 特殊な性質を持った鋼（はがね）
- ✓ 語源はドイツ語のエーデル・シュタル（高貴な鋼）

普通の鋼

- 普通の鋼とは、
≡ 鉄(100%Fe)
+ 炭素(0.02~2%C)

普通の鋼
(炭素鋼)
Fe + C

記号：SN,SR,SD



特殊鋼：特殊な性質

「人々の暮らし」や「産業の発展」に欠かすことができない素材

- 特殊鋼とは、
≡ 普通の鋼 + 添加元素(Cr, Ni, Moなど)

構造用鋼
+Cr, Mo...
SCR,SCM

工具鋼
+Cr, Mo, V...
SKD

ステンレス鋼
+Cr, Ni, Mo...
SUS

高合金
Ni,Cr...
718,625

- 熱に強い性質
- さびにくい性質
- 加工しやすい性質

- ものすごく硬い性質
- 磁化されやすい性質
- ...

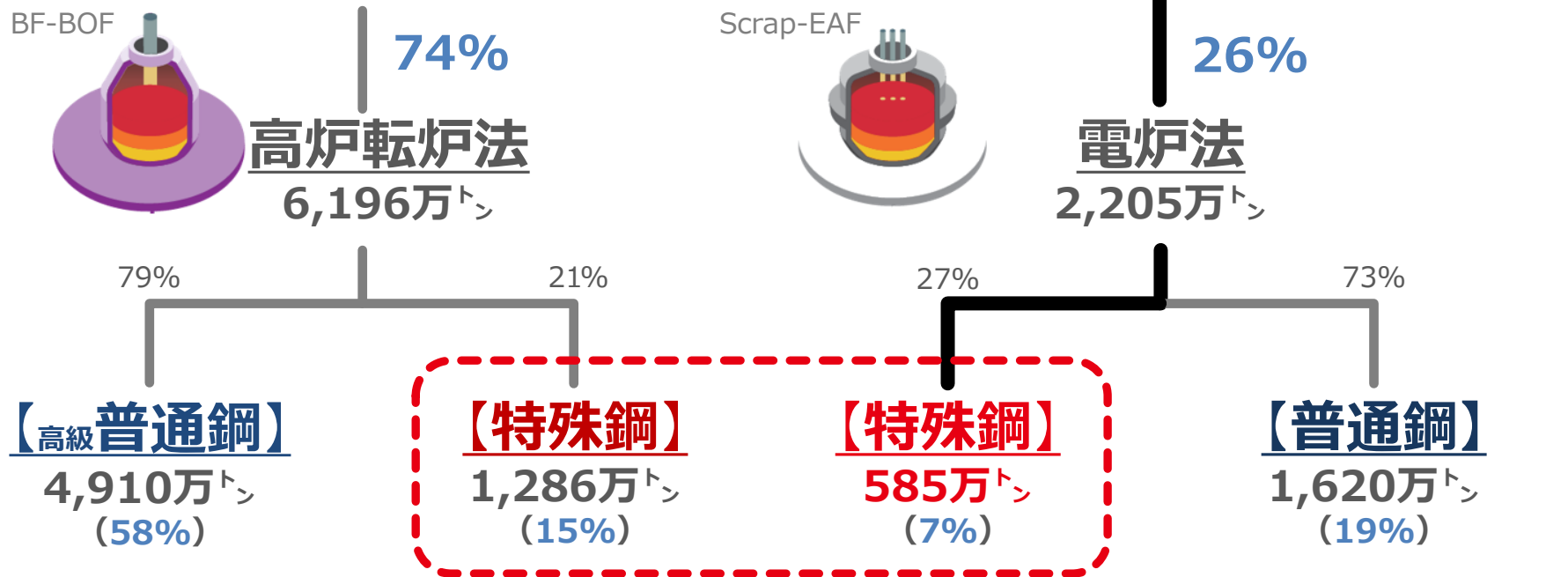
可能性！ いろいろな性質の 素材 が生み出せる

高炉法、電炉法別の粗鋼生産量

2024年日本の粗鋼生産量

8,401万トン

出典：2025年8月 一般社団法人日本鉄鋼連盟



- 日本製鉄 株式会社
- JFEスチール 株式会社
- 株式会社 神戸製鋼所

- ★ 大同特殊鋼株式会社
 - 愛知製鋼 株式会社
 - 株式会社 プロテリアル
 - 山陽特殊製鋼 株式会社

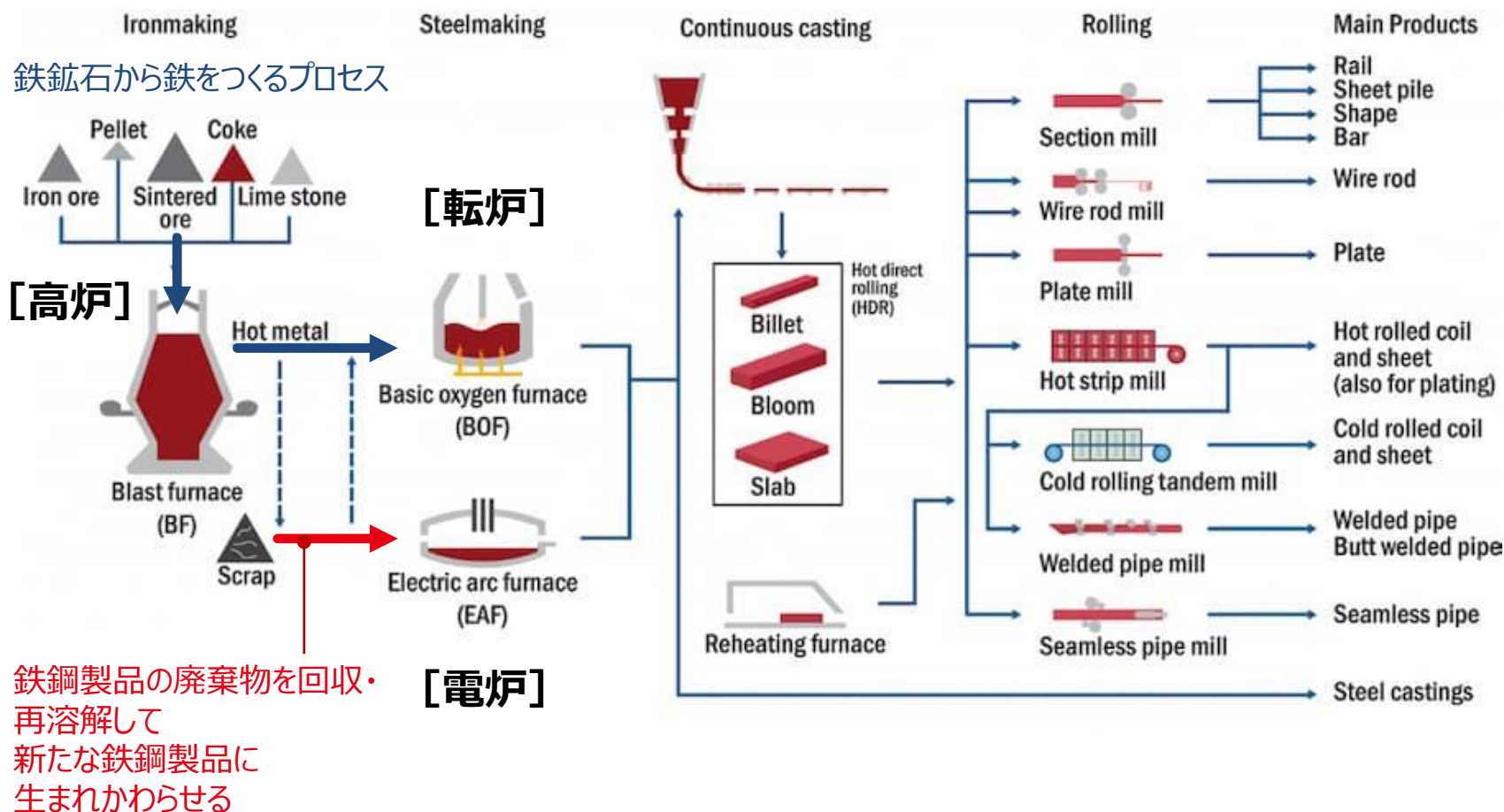
- 東京製鉄 株式会社
- 共英製鋼 株式会社
- 合同製鐵 株式会社
- 株式会社 中山製鋼所

鉄鋼製品の生産プロセス

粗鋼生産（溶かす）

固める

鍛える・延ばす



電気炉 特殊鋼の製造プロセス



自由鍛造品



棒鋼



線材

▼電気炉 特殊鋼の製造プロセス（動画4分19秒）



電炉法の特徴 1 ～カーボンニュートラル実現のための取り組み～

高炉転炉法



CO₂

CO₂排出強度

粗鋼生産量 1 トン当たりの
CO₂排出量

2.32CO₂トン

電炉法

(スクラップ)



CO₂

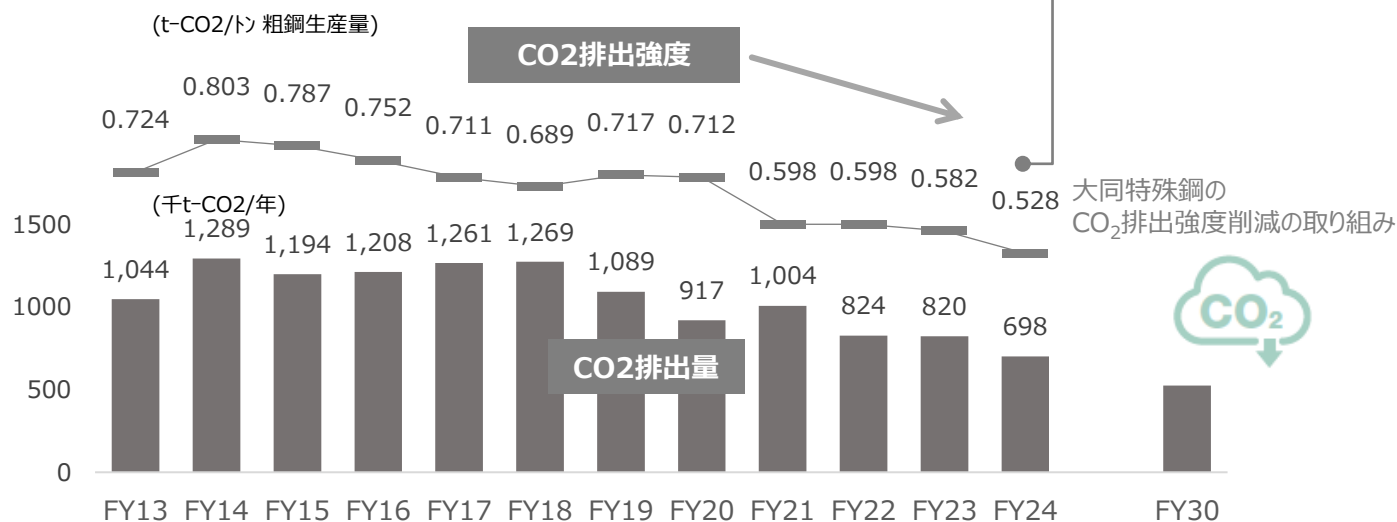
0.70CO₂トン

平均CO₂排出強度

1.84CO₂トン

粗鋼を1トン生産するために、
CO₂を1.84トン排出している

$$\text{平均CO}_2\text{排出強度 } 1.84\text{CO}_2\text{トン} = \left[\begin{array}{c} \text{BF-BOF} \\ 2.32 \\ \text{WSA2023年} \end{array} \times \text{高炉比率 } 70.4\% \right] + \left[\begin{array}{c} \text{Scrap-EAF} \\ 0.70 \\ \text{WSA2023年} \end{array} \times \text{電炉比率 } 29.1\% \right]$$

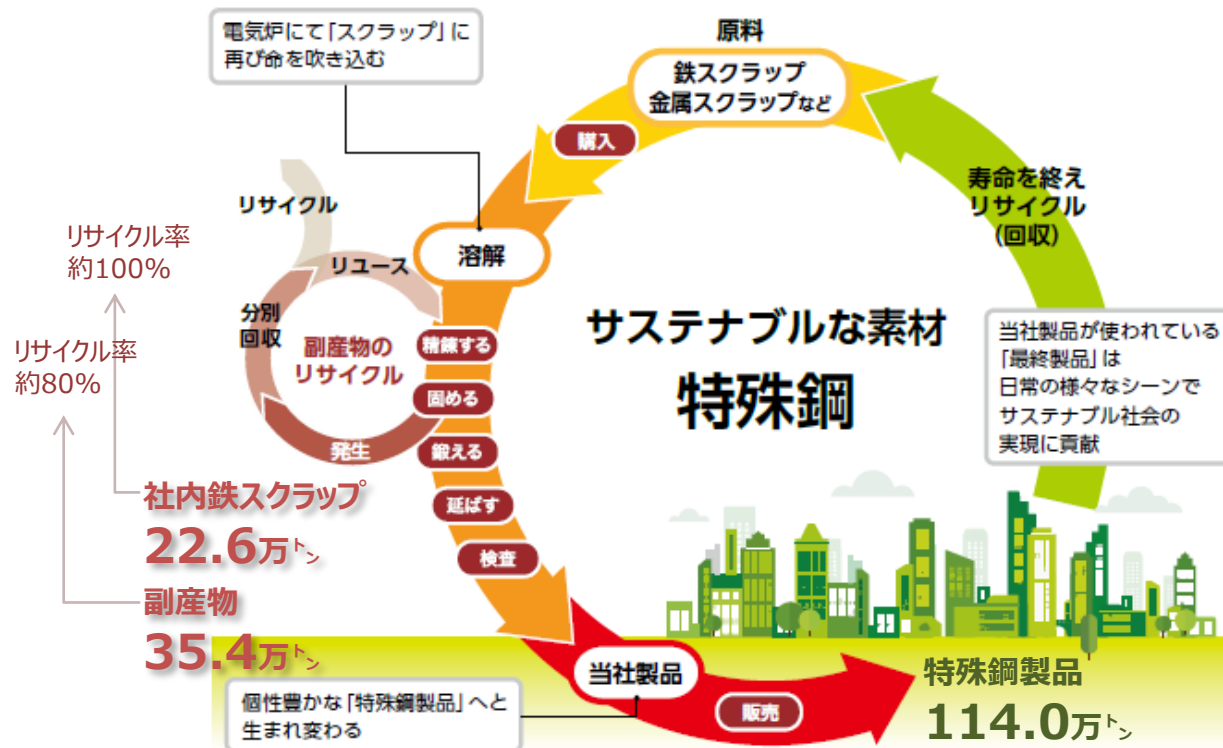


★電炉法の特徴 2 ～サーキュラーエコノミー実現への貢献～

2024年度実績

鉄スクラップ ^①	合金類	副原料・資材	電力	燃料（原油換算）	工業用水
137.7万ト	6.8万ト	9.8万ト	14.2億kWh	18.6万kl	2,293万m³

水循環率
約95%



当社の生産システムは、鉄スクラップを主体に **原料の90%がリサイクル品** です。

鉄を余すことなく活用し、鉄源のクローズドループ化を実現します。

多様な鉄スクラップを新たな製品へ蘇らせる電気炉プロセスは、いわば鉄の資源循環を担うリサイクルプロセスなのです



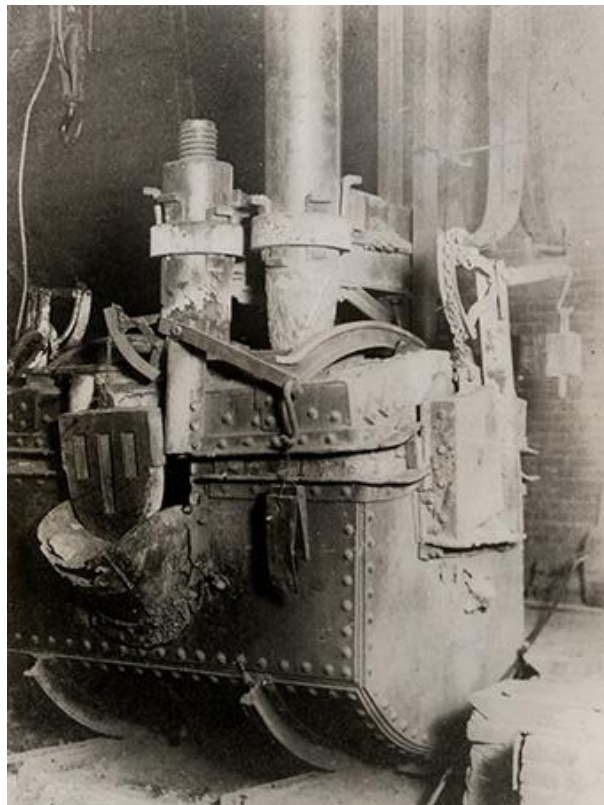
2030年における “ありたい姿”

社会変化が激しく予測が困難な時代にありながら、
持続的な利益成長を可能にするための取り組みを続けるための指針

“ありたい姿”：経営理念を実現している姿

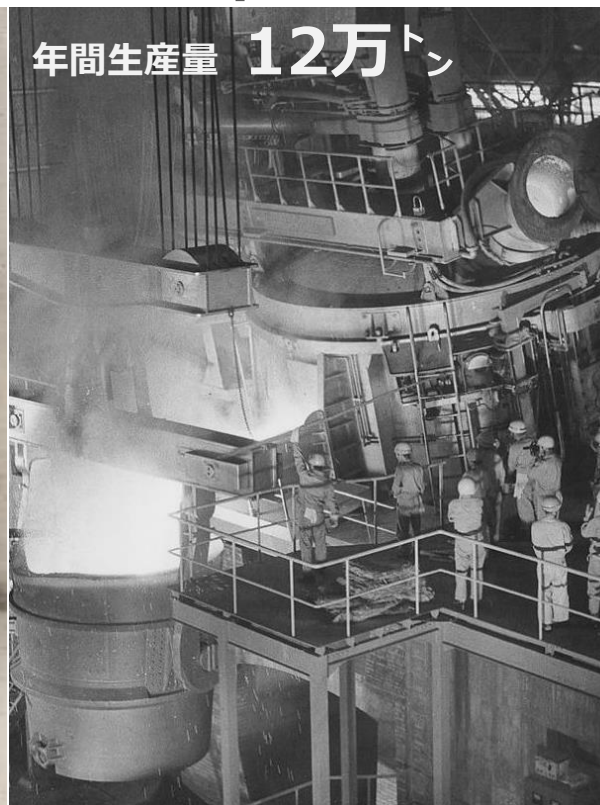
『高機能素材の価値を極め、顧客ベネフィットを創造し、
サステナブル社会の実現に貢献する』

1916年



1.5ト、電気アーク炉
(株) 電気製鋼所 熱田工場

1962年



80ト、電気アーク炉
大同特殊鋼 知多工場

2013年



150ト、電気アーク炉
大同特殊鋼 知多工場

特殊鋼の最適生産アロケーションを追求する

現場力／製造技術

- 渋川工場の高合金増強、星崎・知多第2工場の高機能素材の拡充を進め、日本高周波鋼業の生産設備も活用する
- 知多工場では既存製品のコスト競争力を強化しつつ、ステンレス鋼などより高付加価値製品へのシフトを進める

■ 高合金プロセス改革

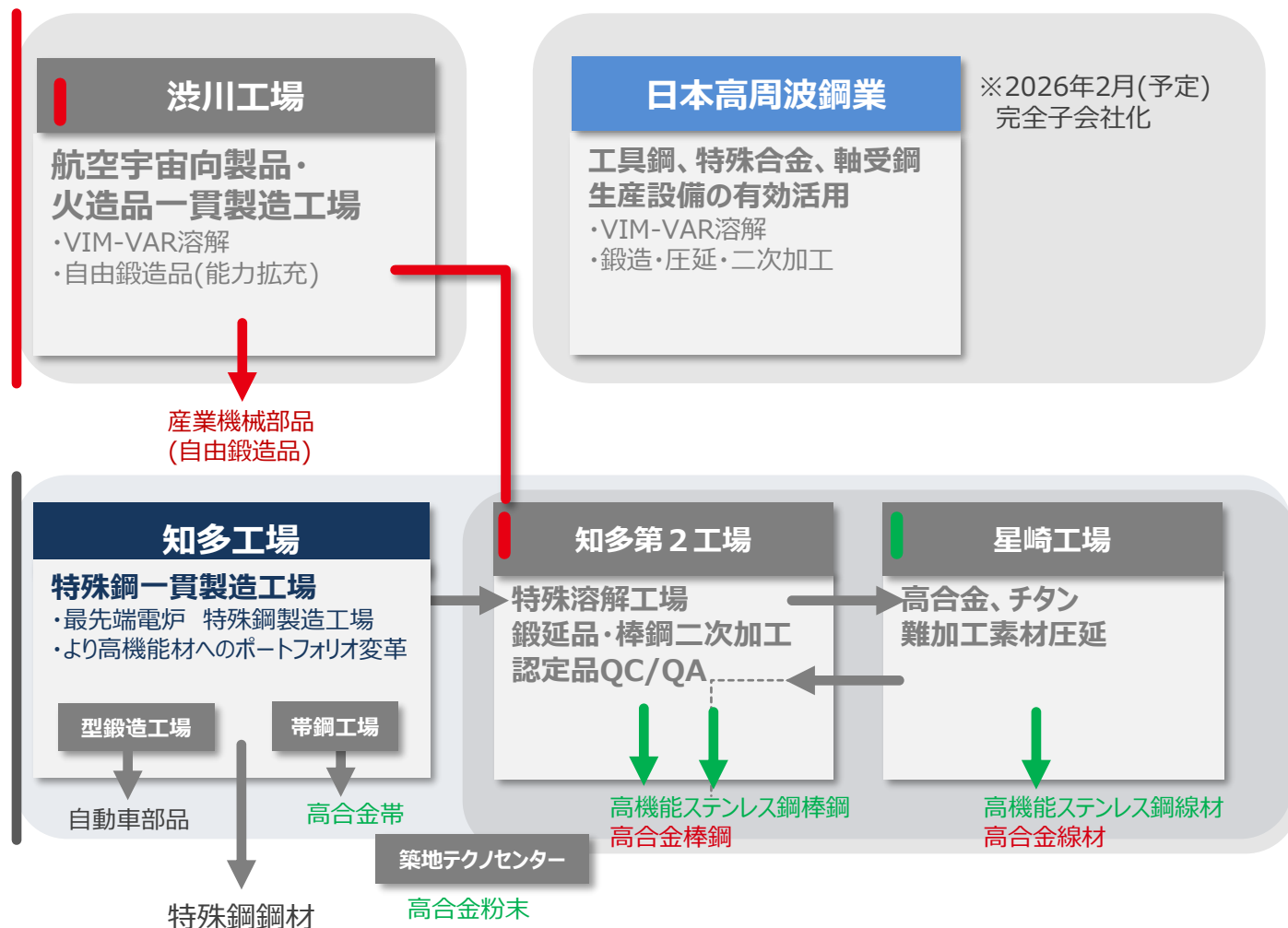
- ・航空宇宙、重電、船舶、掘削向け溶解～自由鍛造能力を拡充
- ・渋川工場：機能的な溶解、鍛造、熱処理設備増設で高合金製造能力を増強
- ・知多第2工場：渋川工場の熱処理、加工検査工程を知多第2工場に移管

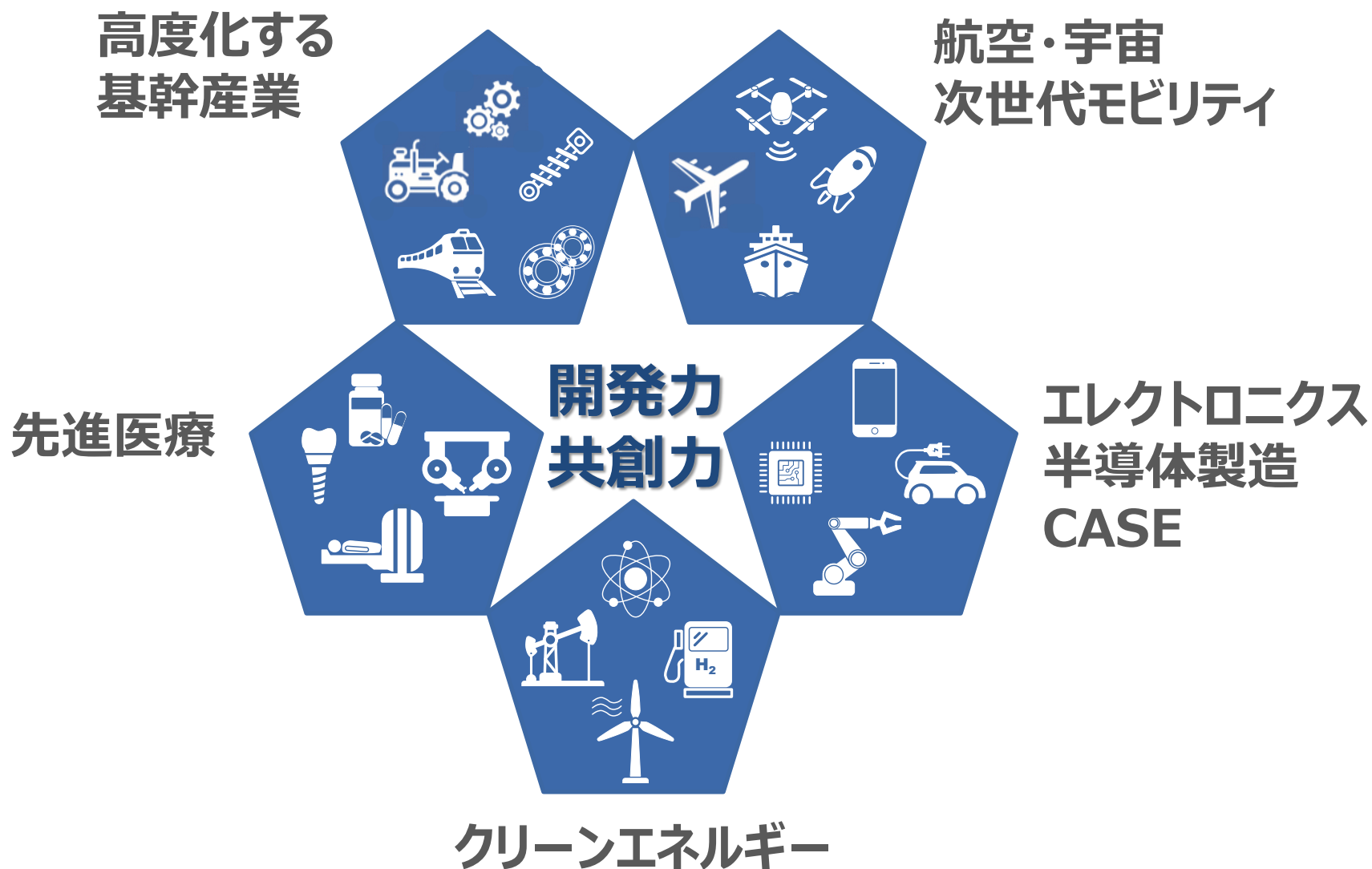
■ 高機能ステンレス・チタン

- ・知多第2工場にて新VAR設備を設置
- ・星崎工場にて高合金やチタンなどの難加工素材の圧延生産能力を拡充

■ 特殊鋼鋼材

- ・既存製品のコスト競争力強化しつつ、ステンレス鋼など高付加価値品へシフト
- ・需要変化に合わせた生産体制へ
- ・二次加工拠点の生産アロケーションや整備も今後検討

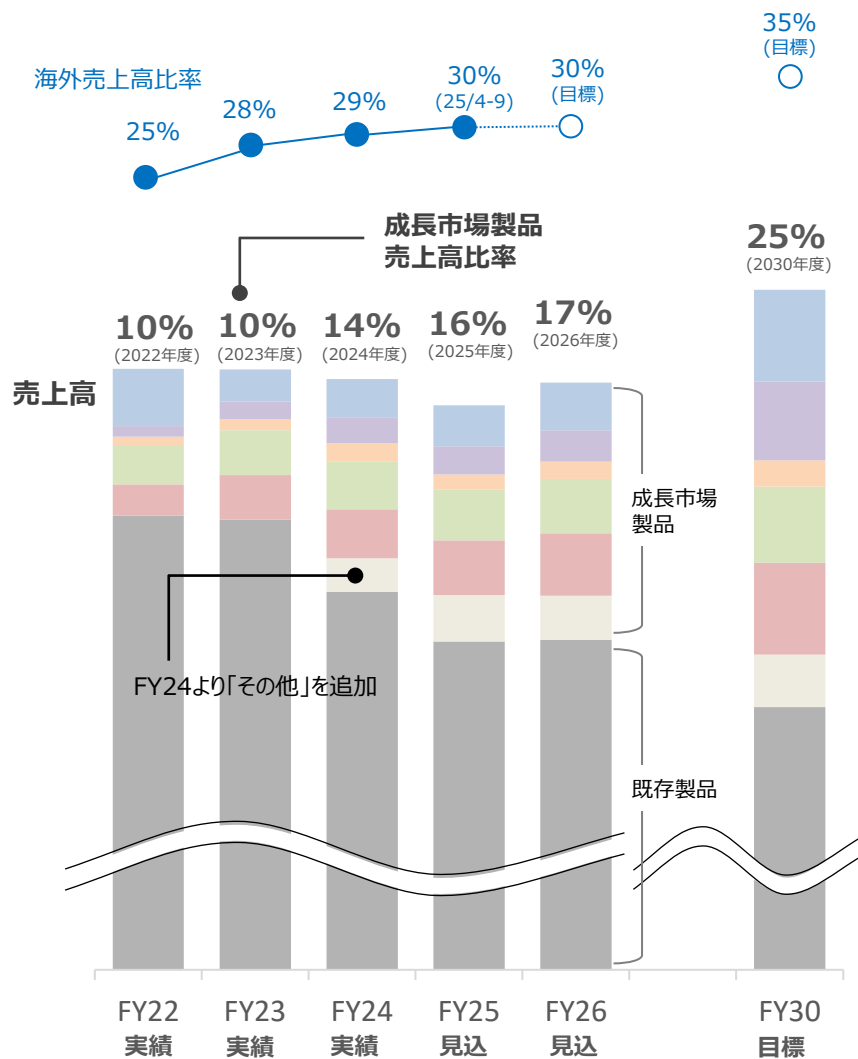






成長市場製品の拡大

成長市場製品売上高比率（連結）



[FY30に向けた成長市場別の活動概況]

半導体	新規海外需要家との取引拡大 本格的な需要回復を見据えVAR導入
航空宇宙	高合金プロセス改革で、製造能力を拡大するとともに製造可能範囲を広げ、更なる需要を獲得
医療	チタン製品の海外需要の確実な捕捉 Ti-15Mo(生体用低弾性率チタン合金)の拡大
クリーンエネルギー	STARQ(巡回式電気炉)など省エネ製品の拡大 革新炉向け部材の採用に向けた取組み推進
CASE	重希土類フリー磁石の新規製造ラインを順次建設 電動車両向け軟磁性粉末の売上げ拡大
その他	船舶、防衛、産業ロボット用途などを成長市場製品に追加（FY24より）
既存製品	自動車・産機向け既存需要は減少していくものの、国内シェアアップと海外需要を補足



事業ポートフォリオの変革による利益成長

市場成長に連動した事業規模の拡大

市場成長率^高

持続的な成長の実現

2030年の“ありたい姿”

エンジニアリング

- ・環境設備開発力強化
- ・レトロフィット事業を拡充

自動車・産業機械部品

- ・航空・宇宙産業との共創関係深化
- ・認定取得を拡大

機能・磁性材料

- ・成長市場製品のラインナップ拡充
- ・半導体製造装置向け素材のシェア拡大

特殊鋼鋼材

- ・自動車産業との共創関係深化
- ・工場損益分岐点の引下

【規模拡大事業】

- ・自由鍛造品

自動車部品
産業機械部品

2030年

機能材料
磁性材料

2030年

【先進事業】

- ・ネオジム磁石
- ・LiB負極材
- ・軟磁性材料
- ・高合金帯・粉末
- ・チタン合金

【高収益事業】

- ・半導体製造装置用ステンレス鋼

エンジニアリング

2030年

【規模拡大事業】

- ・環境設備（工業炉など）

【ベースロード事業】

- ・特殊鋼鋼材
- ・工具鋼鋼材

特殊鋼鋼材

2030年

FY2024

FY2030



円の大きさ：
営業利益



円の大きさ：
営業利益

安定した営業キャッシュフローの創出

【事業ポートフォリオの変革のための施策】

- 成長市場製品の拡大
- 戦略投資の早期効果発現
 - ・高合金プロセス改革プロジェクト、各戦略投資
- M & A戦略の推進（日本高周波鋼業 戦力化）
- 構造改革の推進（人材アロケーションなど）
- 固定費の削減、労働生産性向上

※レトロフィット：既存設備を改造して最新技術を取り込むこと、 CN：カーボンニュートラル、 CE：サーキュラーエコノミー、 LiB負極材：リチウムイオン電池用負極材

成長分野への戦略投資

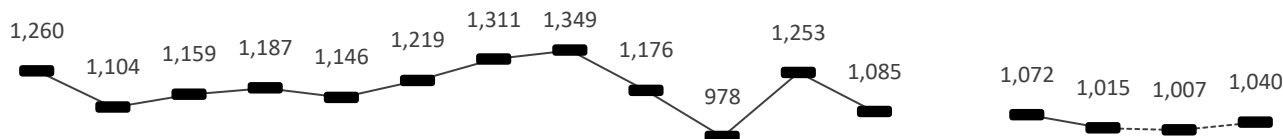
➤ 高合金、チタン製品、磁石製品など戦略製品を拡大するための投資を推進

		設備投資内容	設備イメージなど
産業機械部品	高合金プロセス改革プロジェクト 高合金	■大型四面鍛造機、V I M能力増強、V A R 2基増設 熱処理・加工能力増強 順調に進捗 航空機、掘削(Oil & Gas)向け高合金認定取得、自由鍛造品製造能力増強 投資額：360億円 2027年度プロジェクト完工に向けて順次設備を導入	 大型四面鍛造機（27年度完工予定）
	圧延棒鋼ライン 高合金拡大	■星崎工場棒鋼圧延ライン増強 順調に進捗 高合金の棒鋼圧延能力拡大 投資額 36億円 稼働時期 2027年3月	 星崎工場 棒鋼圧延ライン
機能性材料	真空再溶解炉 (V A R)増強 高機能ステンレス鋼 高合金	■知多第2工場におけるVAR設置 2基 稼働中(2025年2月～) 半導体製造装置用ステンレス鋼、高合金製造能力増強 製造能力 20%向上 投資額 52億円(含む付帯設備)	 知多第2工場 真空再溶解炉 (VAR)
	圧延棒鋼ライン ステンレス鋼 (太丸棒鋼)	■知多工場太丸圧延化 New ステンレス鋼などの棒鋼圧延ライン製品可能範囲拡大 投資額 12億円 稼働時期 2027年8月	 知多工場 分塊圧延ライン
	真空再溶解炉 (V A R)増強 チタン製品(医療用)	■知多第2工場におけるチタン用VAR設置 2基 1基目 稼働中 チタン製品の高受注環境へ対応するため製造能力を増強 投資額 41億円(含む付帯設備) 稼働時期 1基目：2025年10月、2基目：2026年8月	 Ti-15Mo 生体用低弾性率チタン合金 製造技術開発・市場投入を実施
	磁石製造能力増強 熱間加工磁石	■電動車駆動モータ用磁石製造ライン設置 設備導入中 旺盛な電動車需要に対応。2030年までに合計約50億円の設備投資を計画 投資額 15億円 (STEP1) 稼働開始 2026年4月	 重希土類フリー特殊配向磁石

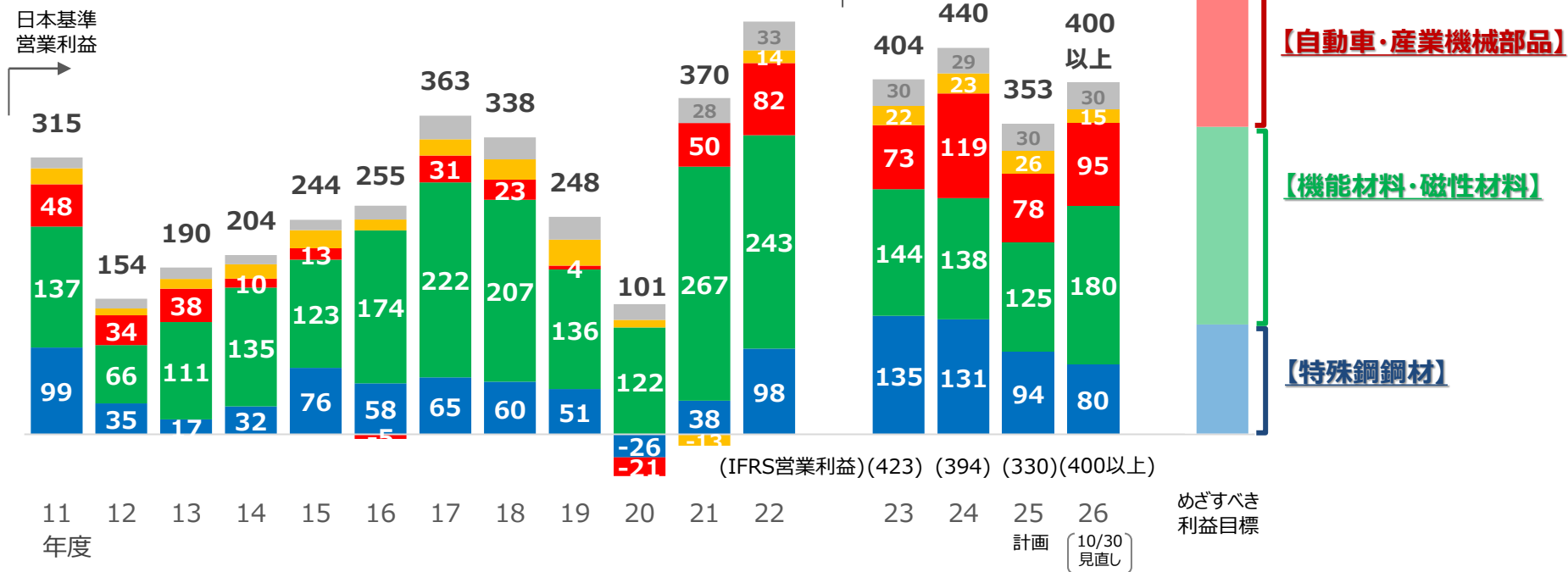
営業利益の変化

- 21年度を境に鋼材売上数量は減少局面にあるも、ポートフォリオ改革や販売価格是正により堅調な利益水準を維持

鋼材売上数量（千t／年）



営業利益推移（億円）

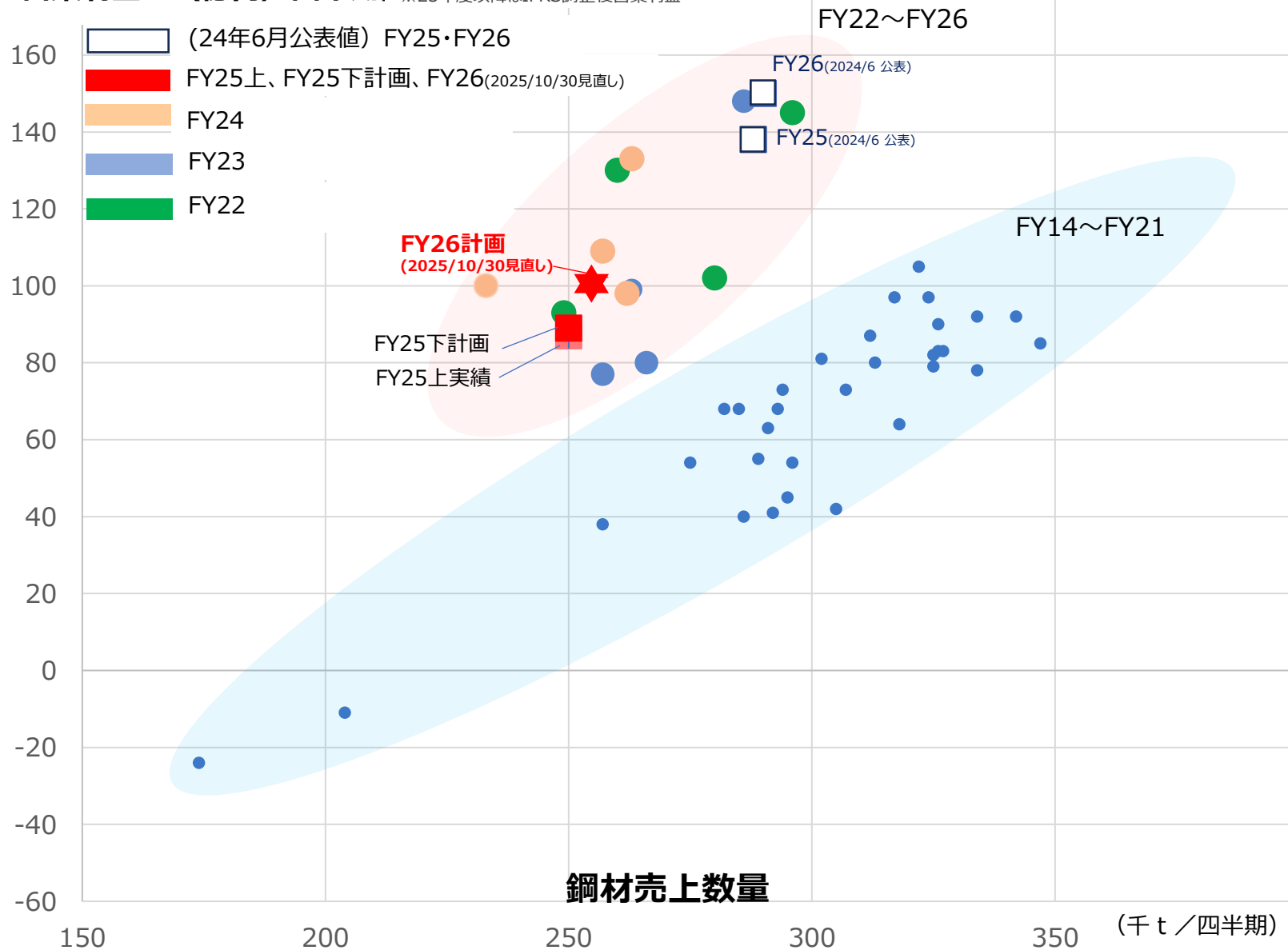




鋼材売上数量と営業利益

営業利益※（億円／四半期）

※23年度以降はIFRS調整後営業利益





株主還元の強化、配当金額の推移

- より安定的な配当を実現するべく、**下限指標としてDOE2.5%を設定**(2025年10月30日公表)
- キャッシュ・アロケーションの進捗を踏まえながら、**自己株式の取得**についても検討

従来の株主還元方針

- 連結配当性向30%以上
- キャッシュ・アロケーションの進捗を踏まえ、株主還元強化を検討

新しい株主還元方針

(2025年10月30日公表)

- 連結配当性向30%以上
但し、**下限指標をDOE2.5%(※)とする**
- キャッシュ・アロケーションの進捗を踏まえ、**自己株式取得についても検討**

※株主資本：その他の資本の構成要素を除外した
親会社所有者帰属持分

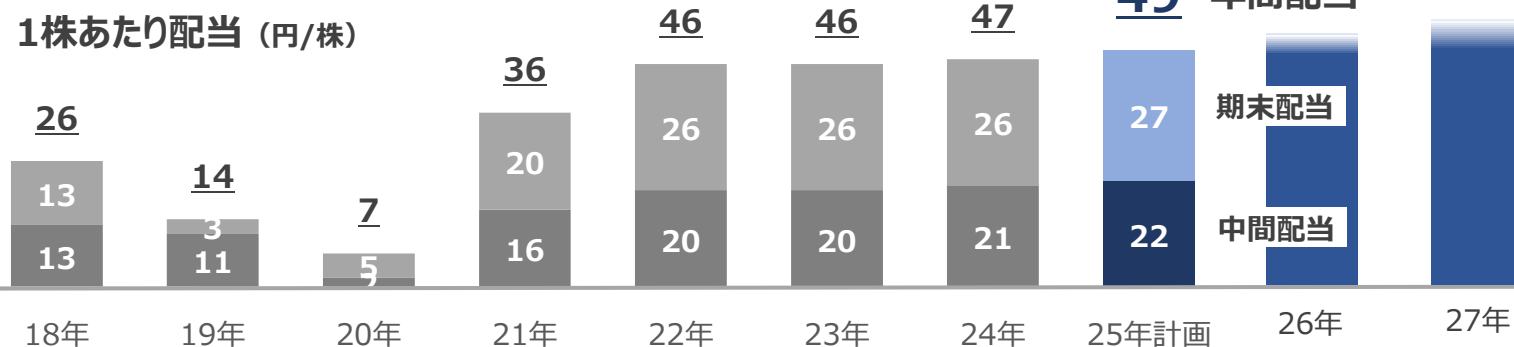
DOE：支払配当÷(前期末の)株主資本

配当性向 (%)



総還元性向
64.9%

1株あたり配当 (円/株)



年間配当

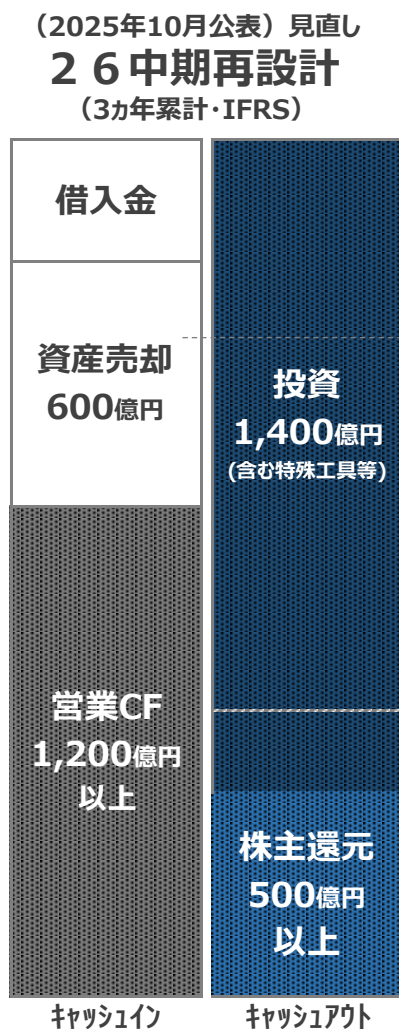
期末配当

中間配当

※1 一過性影響を除く配当性向：
有価証券・固定資産売却益、関係会社清算損、固定資産減損損失を
除外（税引後）した利益に対する配当性向

キャッシュアロケーション

- Cash-IN 政策保有株式の縮減を推進
- Cash-OUT 高機能素材の拡大などを見据え戦略投資を実行。株主還元強化を図る



成長市場製品への戦略投資 合理化・省エネ投資

<戦略投資>

- ・高合金プロセス改革プロジェクト
- ・高機能ステンレス鋼、など
- ・**戦略投資を推進**

資産売却の推進

- ・政策保有株式、ノンコア資産(不動産等)の**資金化を積極的に推進**

・政策保有株式の縮減計画

	24年度 実績	26年度 計画	2030年 目標
純資産比率	17.7%	15%以下	10%

経営基盤の強靱化

- ・人的資本投資
- ・DX推進

株主還元

- ・連結配当性向30%以上
- ・下限指標をDOE2.5%で設定
- ・自己株式取得を実施

2030年 “ありたい姿” 高機能素材の価値を極め、顧客ベネフィットを創造し、
サステナブル社会の実現に貢献する

26中期

経営方針 社会経済・産業構造の変化を事業好機とし、事業ポートフォリオの
変革を遂行し、新たなビジネス・ドメイン（顧客×提供価値×手段）で
持続的な利益成長を実現する

行動方針 「事業ポートフォリオの変革」「経営基盤の強靱化」「ESG経営の高度化」

**目指すべき
経営指標**

**営業利益
600億円以上**

- 事業P/F変革（成長市場製品拡大）
- 戦略投資の早期効果発現（高合金プロなど）
- M&A戦略（日本高周波鋼業 戦力化）
- 構造改革（人材アロケーションなど）
- 固定費の削減、労働生産性向上

**ROE
9%以上**

- 資産売却の促進（政策保有株式・不動産など）
- 株主還元の安定化（下限DOE導入）
- 株主資本コントロールの実施（自己株式の取得）

**PBR
1.0以上**

- サステナビリティ経営の高度化
- ガバナンスの改善
- ステークホルダーコミュニケーションの強化
（国内外の投資家との接点づくり拡大）

大同特殊鋼グループ 経営理念

素材の可能性を追求し、
人と社会の未来を支え続けます

2030年の“ありたい姿”

高機能素材の価値を極め、顧客ベネフィットを創造し、
サステナブル社会の実現に貢献する

26中期経営計画 — トランジション・マネジメント —

社会経済・産業構造の変化を事業好機とし、事業ポートフォリオの変革を遂行し、
新たなビジネス・ドメイン（顧客×提供価値×手段）で持続的な利益成長を実現する